

平成27年度事業報告

自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日

I. 展覧会

1. 第44回「日本の書展」直轄展

下記の直轄4展を開催。44回直轄4展の出品者総数は3,515名で、43回展に比べ39名増加。入場者数は、直轄4展合計で16,077名、前回に比べ471名増加。

41回展（平成25年）から行っている、図録1冊（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）および出品者本人の作品ブロマイド2枚ずつの贈呈は、今展も引き続き行った。

前回から各直轄展の会場内で出品作家（主に役員）を講師としての1時間程度のギャラリートークを行ったが、各会場とも通常の土日よりもかなり集客数が増し、内容も好評だったため、今展も引き続き行った。作品解説に加え、作家紹介や展覧会を訪れた際の作品の見方など、トーク内容も多様で大変好評だった。

また、全展の展覧会場、開催披露祝賀会会場には、「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録推進運動の一環として、ポスターおよびバナーを掲示し、広報活動を行った。

(1) 関西展

会 期 平成28年5月27日（金）～5月29日（日）

会 場 大阪国際会議場（3階イベントホール）

主 催 （公財）全国書美術振興会 産経新聞社

後 援 文化庁

協 賛 （公社）日本書芸院

開催披露祝賀会 平成28年5月27日（金）17:00～18:30
リーガロイヤルホテル 3階 「ロイヤルホール」

ギャラリートーク 平成28年5月29日（日）11:00～
大阪国際会議場 3階イベントホール
講師 土井汲泉評議員

関西展の出品数は、巨匠17点、代表85点、委嘱29点、招待378点、秀拔選579点、合計1,088点、会期中の入場者数は1,526名だった（前回43回展の入場者数は2,056名）。産経新聞社の紙面協力、日本書芸院の協賛も得ている。

前展まで3階イベントホール全スパンを4日間借用していたのを、今展は経費節減のため、4/5スパン、会期を金・土・日曜日の3日間にした。その影響もあって入場者数は減少したが、次展も同じく4/5スパン、会期3日間で開催したいと考えている。

会期初日の5月27日（金）17時から、リーガロイヤルホテル3階「ロイヤルホール」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて315名の出席があった。祝賀会では、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、産経新聞社専務取締役・大阪代表 齋藤勉氏から共催者挨拶があった後、日本書芸院会員 井茂圭洞名誉顧問の乾杯発声で祝宴に入り、18時30分過ぎに終了した。

(2) 中部展

会 期 平成28年5月31日（火）～6月5日（日）

会 場 第1会場 愛知県美術館ギャラリー

（愛知芸術文化センター8階 展示室A・B・C・D・E・F）

第2会場 名古屋市博物館（3階ギャラリー全室）

主催 (公財) 全国書美術振興会 中日新聞社
後援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市
各県市教育委員会 東海テレビ放送
協賛 (公社) 中部日本書道会
開催披露祝賀会 平成28年5月31日(火) 18:00~19:30
名古屋東急ホテル 3階 「ヴェルサイユ」
ギャラリートーク 平成28年6月4日(土) 14:00~
愛知県美術館ギャラリー
講師 松下英風評議員

中部展の出品数は、巨匠17点、代表85点、委嘱16点、招待170点、秀抜選510点、合計798点、会期中の入場者数は2会場合計で3,417名だった(前回43回展は愛知県美術館ギャラリー1会場開催で、入場者数は3,191名)。

中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。
5月31日(火)18時から、名古屋東急ホテル3階「ヴェルサイユ」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて290名の出席があった。

祝賀会では、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、中日新聞社常任顧問 小山勇氏から共催者挨拶があった後、樽本樹邨顧問の書家代表挨拶へと続き、東海テレビ放送事業局専門局長 加藤昭宏氏の乾杯発声で祝宴に入り、19時30分に終了した。

(3)東京展

会期 平成28年6月9日(木)~6月19日(日) 6月14日(火)は休館日
会場 国立新美術館(展示室1A・1B・1C・1D)
主催 (公財) 全国書美術振興会 共同通信社
後援 文化庁
開催披露祝賀会 平成28年6月9日(木) 12:30~14:15
パレスホテル東京 2階 「葵」
ギャラリートーク ①平成28年6月11日(土) 14:00~
国立新美術館 展示室
講師 清水透石理事
②平成28年6月18日(土) 14:00~
国立新美術館 展示室
講師 海野涛山評議員

東京展の出品数は、巨匠17点、代表85点、委嘱39点、招待586点、秀抜選767点、東京展合計1,494点、他展の委嘱(関西展委嘱29点・中部展委嘱16点・九州展委嘱12点)も加わり、総展示数1,551点。

会期中の入場者数は9,590名だった(前回43回展の入場者数は8,565名)。
会期初日の6月9日(木)12時30分から、パレスホテル東京2階「葵」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて620名の出席があった。

祝賀会では、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、株式会社共同通信社取締役 岩永陽一氏から共催者挨拶があった後、衆議院議員・書道国会議員連盟会長 河村建夫氏の来賓祝辞、日本芸術院会員 井茂圭洞名誉顧問の書家代表挨拶へと続き、衆議院議員・書道国会議員連盟会長代行の塩谷立氏の乾杯発声で祝宴に入り、14時15分に終了した。

前回まで使用していたホテルオークラ東京本館の建て替え工事に伴い、今回からパレスホテル東京を使用することにした。2012年に建て替えした皇居前のホテルで、展覧会場の国立新美術館にも千代田線一本でアクセスできる立地の良さを考慮し選んだが、今回は出席者数に対して会場が狭かった。次回は会場面積を広くする予定。

(4)九州展

会 期 平成28年7月14日(木)～7月18日(月・祝)
 会 場 福岡アジア美術館(7階企画ギャラリーABC・8階交流ギャラリー)
 主 催 (公財)全国書美術振興会 西日本新聞社
 後 援 文化庁
 開催披露祝賀会 平成28年7月14日(木) 12:30～14:00
 ホテルオークラ福岡 4階 「平安の間」
 ギャラリートーク 平成28年7月16日(土) 14:00～
 福岡アジア美術館 ギャラリー
 講師 野田正行九州展委嘱作家

九州展の出品数は、巨匠17点、代表85点、委嘱12点、招待122点、秀拔選205点、合計441点、会期中の入場者数は1,544名だった(前回43回展の入場者数は1,794名)。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

会期初日の7月14日(木)12時30分から、ホテルオークラ福岡4階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品書家・招待者合わせて101名の出席だった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、西日本新聞社企画事業室長 伊藤陽氏から共催者挨拶があった後、九州国立博物館館長 島谷弘幸氏の乾杯発声で祝宴に入り、14時に終了した。

例年より会期が1日少ない5日間の開催だったため、入場者数は減少している。

2. 第44回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の102点については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方8カ所を巡回する。5番目の岡山展まで開催。

第44回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	28.7.21～7.24	189	1,465
2	鳥取	米子市	山陰中央新報社	米子市美術館	28.8.26～8.29	200	505
3	青森	青森市	東奥日報社	青森市民美術展示館	28.9.8～9.12	297	868
4	広島	広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	28.9.29～10.4	618	19,015
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階葦川会館	28.10.12～10.17	566	5,045
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	29.2.22～2.26	(221)	(3,948)
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	長野県信濃美術館	29.3.3～3.6	(239)	(1,699)
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	29.4.15～4.20	(359)	(2,235)

※ () 内の数字は前回第43回展の実績

3. 第44回「日本の書展」東京展 公募臨書

会 期 平成28年6月9日(木)～6月19日(日) 6月14日(火)は休館日
 前期展示 平成28年6月9日(木)～6月13日(月)の5日間
 後期展示 平成28年6月15日(水)～6月19日(日)の5日間
 会 場 国立新美術館(展示室1Dの一部 51～53室の3室)
 主 催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社
 後 援 文化庁

2012(平成24)年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回5回目となる。出品点数は906点で、前回の931点より25点減だったが、ほぼ安定した点数を保っている。

平成28年1月21日に、国立新美術館審査室で審査委員8名による入選・落選の審査鑑別を行ったが、入選率50%を念頭に置いた審査をし、結果、入選数は451点、入選率は49.8%となった。内訳は下表参照。

前回同様に出品整理料は1,000円、入選者は表具代および作品返却送料の一部1,000円を負担してもらった。入選作品は表具をして国立新美術館の51～53の3室に展示したが、今回も壁面展示となる半切たて作品の出品が大変多いため、壁面展示は2段掛けとした。

展示後、入選者には表装作品と共に、一色白泉参事筆耕の「入選証」が贈られ好評だった。

第44回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示	机上展示		計
	半切たて	半切よこ	篆 刻	
前期展示	180	40	6	226
後期展示	180	40	5	225
入選数合計	360	80	11	451

第44回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢 字		仮 名		篆 刻
	半切たて	半切よこ	半切たて	半切よこ	
	338	16	22	64	
354		86			
入選数合計	451				

II. 書写・書道教育推進協議会

活動報告は、その他議題にて。

III. 日本書道ユネスコ登録推進協議会

活動報告は、その他議題にて。

II. 機関誌および書美術に関する出版物刊行ほか

1. 展覧会作品集等の制作

(1) 第44回「日本の書展」直轄展

① 図録 4,400部

現代書壇巨匠・現代書壇代表・全展委嘱作品図版をオールカラー刷りで掲載。

巻末には、全展招待・秀拔選作家を含む全出品者名簿を掲載。

各出品者には、1冊ずつ贈呈。

- ②出品者本人の作品プロマイド 7, 336枚
展覧会名・姓号入り 2Lサイズ カラー写真 非売品。
各出品者には、出品者本人のプロマイドを2枚ずつ贈呈。
(出品者3, 498名×2枚ずつ、現代書壇巨匠17名のみ×20枚ずつ)
- ③出品者名簿 関西展 14, 300枚
 中部展 11, 600枚
 東京展 21, 300枚
 九州展 6, 600枚
- ④案内はがき 120, 500枚
⑤ポスター 500枚

(2)第44回「日本の書展」巡回展

- ①図録(直轄展と同図録) 950部

(3)第44回「日本の書展」公募臨書

- ①出品要項 20, 900枚
②入選者名簿 2, 000枚
③入選證 510枚

2. 機関誌「書美術」の刊行

4, 340部

平成28年4月1日に第33号発行

3. ホームページの更新

4. スマートフォンカバー「One Cover」の発売

Ⅲ. 書美術功労者の顕彰

特になし。

以 上